

# 江南市立図書館システム構築等業務 個別機能仕様書

- 1 図書館システム機能仕様書
- 2 座席管理システム機能仕様書

令和4年5月  
江南市

# 1 図書館システム機能仕様書

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
1 基本仕様について					
	○	1 サーバOSはWindows,Lniuxに対応し、メーカー依存の無い柔軟なシステム構築が可能であること			
		2 WEBベースアプリケーションであり、端末側には一般的なWEBプラグインソフト以外はインストールをしなくてもよいシステムであること			
		3 基本データベースソフトウェアは国際標準言語(ISO)及び日本工業標準言語(JIS)に準拠したデータベースソフトウェアを備えていること			
		4 アプリケーションのバージョンアップはサーバ作業のみとし、クライアントに対してバージョンアップ作業負荷をかけること			
	○	5 使用期間中はバージョンアップの提供と作業を保守契約に含め、年1回以上のバージョンアップ機能を提供すること			
		6 リモートメンテナンスが可能なシステムであること			
		7 各端末で図書館業務以外の他のソフト(ワープロ、表計算、インターネット等)も、マルチタスクで起動できること			
	○	8 データ数が増加することにより、DB再構築などのメンテナンス処理が必要のないシステムであること			
	○	9 インターネット公開用サーバを設置し、蔵書検索、予約等が業務サーバとリアルタイムに同期をとり処理できること。また新着案内、ベストリーダー、ベストオーダーよりシームレスに連携して予約処理が行えること			
		10 スケジューリングによる自動バックアップが可能であること			
		11 バックアップ処理が24時間稼動に影響を与えないように構築ができること			
		12 多言語対応していること			
		13 サーバにアクセスする端末をIPアドレスまたは、認証モジュールにより制限ができること			
		14 どの業務画面からもワンクリックでログアウトが行えること			
		15 貸出、返却、予約、検索、利用者登録などは、メニューに戻らなくても展開可能なこと			
		16 キーボードだけで業務処理が行えるように各主要ボタンには、ショートカットキーが割り当てられていること			
		17 システムの操作権限についての操作者認証機能があること			
		18 処理機能単位での操作制限をID毎に設定ができること			
		19 MARCデータの登録などが業務に支障を与えることなく行えること			
		20 オンライン発注、利用者へのメール送信機能などを持ち、インターネットを活用できるシステムであること			
		21 日付の入力は、カレンダーより日付を選択して呼び出し可能なこと			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		22 予約確保連絡などの各種メール送信処理があること。メール送信時には、bccで図書館のメールアドレスに対して同じ文面を送信できること。			
2		貸出			
		1 貸出返却窓口での操作は、マウスを用いずに簡便に行えること			
		2 処理の切り替えがバーコードで行えること			
		3 プライバシーに配慮して、一定時間で貸出初期画面に戻ること			
		4 利用者情報を呼び出したときに、延滞資料あり、予約確保資料あり等のポップアップメッセージが表示できること			
		5 利用券スキャン時にあらかじめ登録されている利用者に対するメッセージが表示されること。また、そのメッセージはシステム管理者が任意に設定できること			
		6 利用者番号スキャン時に更新時期が近い利用者に対してメッセージを表示できること			
		7 名前などの利用者情報がデフォルトでは表示されないこと			
		8 貸出画面で利用券番号と利用者の名前の表示の切替ができること			
		9 貸出画面から利用者情報確認が行えること			
		10 利用者に対するメッセージは、定型語、自由入力どちらでも可能なこと			
		11 利用者がカードを忘れても、利用者検索により情報を呼び出せること			
		12 利用者検索は、以下の項目で検索できること。 名前、電話番号、生年月日、メールアドレス、住所コード			
		13 利用者カード再発行した際に、旧番号を走査しても貸出を行うことができること			
		14 未登録の利用券を走査した際に自動的に仮の利用者データを作成し、貸出処理ができること			
		15 自館確保資料がある場合は、自動的に予約状況画面へ遷移できること			
		16 貸出画面で、貸出冊数、延滞冊数、督促冊数、紛失冊数、予約件数(確保中/予約冊数)が確認できること			
		17 貸出画面で各利用者の冊数制限の確認ができること			
		18 貸出一覧の並び順は、画面上より変更できること。並び順は以下の種類があること。 貸出日降順、貸出日昇順、返却日降順、返却日昇順			
		19 延滞資料は目立った色で表示されること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		20 貸出資料一覧の背景色を資料の状態別に変えることができること			
		21 貸出画面からラベル番号の蔵書情報の確認が行えること			
		22 ボタンクリックで資料名を表示するようにするなど、プライバシーを保護する設計であること。また、その逆もできること			
		23 貸出画面における利用者情報、貸出一覧の表示内容は打合せにより柔軟に対応すること			
		24 貸出資料のバーコード走査を連続で行っても、WEBブラウザのリロードが起らずにレスポンスよく貸出情報一覧が更新できること			
		25 貸出取消をした際に、予約データが復旧されること			
		26 資料バーコードスキャン時に資料状態がチェックされて、禁帯出、付録付き、予約有り、不明、除籍、紛失中、弁償済資料などメッセージが表示できること			
		27 利用制限をオーバーする場合は、メッセージが表示されること			
		28 貸出規則に反するものでも、メッセージ確認により処理が継続できること			
		29 未登録資料でもデータを登録することなく貸出できること			
		30 相互貸借資料の貸出が行なえること			
		31 通常貸出と館内貸出を区別して貸出できること			
		32 貸出日を任意の日付に指定してから貸出が行えること(返却期限日は指定した貸出日からの起算になること)			
		33 休館日カレンダーをメンテナンスすることで、返却期限日を休館日になることを避けることができること			
		34 貸出規則はシステム管理者が任意に設定できること			
		35 返却期限日変更時に、日付をカレンダーから指定できること			
		36 貸出票をレシートに印刷できること(資料番号/書名/返却期限日)			
○		37 団体利用者向けの貸出リストが貸出画面から印刷できること			
		38 プライバシー保護のため、貸出票には利用者名や連絡先が印字されないこと			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		39 貸出票に各図書館ごとのお知らせを表示することができること			
		40 貸出票に図書館で任意に登録した画像(催し物の案内、広告など)を印刷できること			
		41 持出禁止資料に対して申請書として利用できる内容をレシートに印刷できること			
		42 既に貸出中の資料をスキャンして貸出更新できること			
		43 一覧から複数の資料を選択して貸出更新ができること			
		44 貸出更新を行なう場合は、予約のチェックや更新回数のチェックを行えること。また、この設定を図書館で自由に設定できること。			
		45 貸出画面から紛失処理ができること			
		46 紛失処理をした際に、紛失届が出力できること			
		47 貸出画面から弁償処理ができること			
		48 貸出画面から調査処理ができること。調査処理をした資料は、利用冊数にカウントされないこと(利用者が返却したつもりでも、返却状態になっておらず資料が見つからないような場合を想定)。			
		49 貸出画面もしくは利用者画面から督促の処理ができること			
		50 貸出画面もしくは利用者画面から督促の履歴を確認できること			
		51 貸出画面から利用者の予約情報が確認できること			
		52 予約一覧の内容をレシートに印刷できること			
		53 予約一覧で、予約確保済資料は確保日の近い順に並ぶこと			
		54 予約一覧で、予約データの背景色を状態に応じて設定できること			
		55 予約一覧から予約の取消、受取館、連絡方法の変更ができること			
		56 予約一覧から予約の取り消しをした際に、取消理由を選択できること			
		57 予約一覧または予約画面からシリーズ予約の確保順を変更できること			
		58 予約状況画面に予約キャンセル情報を一定期間表示できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		59 予約状況画面にリクエスト情報を表示できること			
		60 貸出画面から家族の利用状況を確認できること			
		61 利用券スキャン時または家族表示時に家族利用者に予約資料がある場合は、メッセージが表示できること			
		62 利用券スキャン時または家族表示時に家族利用者に督促資料がある場合は、メッセージが表示できること			
		63 家族の予約確保資料を代わりに貸し出すことができ、家族の予約は削除されること			
		64 利用者自身で貸出処理を行えるセルフ貸出機能があること			
		65 貸出データの返却期限日を変更できること			
		66 貸出データの返却期限日を変更する際、元の返却期限日から指定日数を延長する、指定した日付に設定する、いずれの変更も可能なこと			
<b>3</b>	<b>返却</b>				
		1 返却資料のバーコード連続走査による返却処理が行えること			
		2 返却資料のバーコード走査を連続で行っても、WEBブラウザのリロードが起こればレスポンスよく返却情報一覧が更新できること			
		3 確定処理が必要ないこと			
		4 プライバシーに配慮して、一定時間で返却初期画面に戻ることに			
		5 返却処理画面で利用券番号を読み込むと、自動的に貸出処理画面に遷移すること			
		6 返却資料情報は、借用情報、紛失情報、貸出時に入力した備考が表示できること			
		7 資料タイトルはデフォルトでは表示されないボタンクリックで表示するようにするなど、プライバシーを保護する設計であること。また、その逆もできること。			
		8 返却時に返却者の貸出、予約一覧が表示できること			
		9 利用者名はデフォルトでは表示されないボタンクリックで表示するようにするなど、プライバシーを保護する設計であること			
		10 返却画面における資料状態・蔵書情報の表示内容は打合せにより柔軟に対応すること			
		11 返却資料情報を呼び出したときに、予約確保資料等のポップアップメッセージが表示できること			
		12 予約資料が返却されたときに予約確保票がプリントアウトされること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		13 予約確保票には、資料情報/予約者情報/電話区分/電話番号/予約備考/確保日/確保通知方法/予約番号/予約種別/出力館/出力日時が印字されること			
		14 予約確保者の利用者をすぐに確認できること			
		15 予約資料が受取館とは別の館に返却された場合は、予約回送票がプリントアウトされること			
		16 返却資料の蔵書データ管理画面をワンクリックで起動できること			
		17 返却時に資料状態がチェックされ、禁帯出、付録付き、予約有り、不明、除籍、紛失中などの表示があること			
		18 返却時にあらかじめ登録されている利用者に対するメッセージが表示されること、また、そのメッセージはシステム管理者が任意に設定できること			
		19 不明資料は自動的に、通常状態にもどすこと			
		20 利用者カードをスキャンすると、貸出画面に移行できること			
		21 所蔵館とは別の館に返却された場合は、所蔵館への移送を知らせる機能があること			
		22 貸出を行っていない資料をスキャンしてもよいこと			
		23 相互貸借資料を返却した場合は、メッセージが表示されること			
		24 1日の返却履歴を確認できること			
		25 返却履歴一覧は、「返却日順」「利用者名順」にソートが可能なこと			
		26 返却処理をした際に、返却者の残りの貸出資料を同一画面で確認できる返却処理機能があること			
		27 利用者を特定し、その利用者が借りている資料を一括で返却できること			
		28 延滞資料のデータを一括で除籍登録できる機能があること			
○		29 返却資料を仮返却状態にして、一定期間別の利用者に貸出できないようにする仮返却機能があること			
		30 仮返却中の資料を一覧で確認できること			
		31 仮返却中の資料一覧はファイル出力が可能であること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		32 仮返却中の資料を貸出状態に戻すことができること			
		33 仮返却中の資料について、貸出利用者名/利用券番号/電話番号/タイトル/著者名/出版者/資料番号/所蔵館/請求記号が記載された連絡票を出力できること			
<b>4 利用者登録</b>					
		1 利用者登録画面は、フォーカスが当たっている部分が反転し、登録作業がしやすい設計になっていること			
		2 利用区分(登録資格)は自由に設定できること			
		3 電話番号には、自宅、勤務先、携帯などの区分を設けて、複数登録ができること			
		4 電話番号の項目には、内線番号などの入力ができること			
		5 メールアドレスの登録ができること			
		6 利用者ごとにメール通知の可否が設定できること			
		7 氏名のほかに、団体名、会社名も入力できること			
		8 住所コードが登録でき、住所コードから郵便番号と住所を呼び出せること			
		9 郵便番号からの住所の呼び出しで、マスタから町名を選択できること			
		10 利用者へのメッセージは、定型句とフリー文言のいずれも可能であること。また、定型句は複数登録できること			
		11 登録画面上に「累計利用回数」「最終利用日」「督促回数・日」を表示することができること			
		12 氏名と生年月日、電話番号による二重登録防止チェックができること			
		13 新規利用者登録時に、新規の利用券番号を自動的に振り出して登録できること			
		14 利用者データはコピー可能で、コピー時は名字、住所関連事項がコピーされ、家族の利用者などの登録が簡便にできること			
		15 利用者の住所データや電話番号を更新時に、同じ電話番号の利用者のデータも更新できること			
		16 新規利用者登録時に家族利用者が存在した場合には画面上に家族の一覧を表示させることができること			
		17 有効期限日の設定ができ、期限日を超えた利用者は貸出、予約を行なえないようにすること			
		18 有効期限日の更新が簡易にできること			
		19 利用券の再発行は新規カードに旧カードの利用者データ及び関連情報を継承できること			



○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		20 利用券再発行の回数が画面で確認できること			
		21 OPACログイン用のパスワードを発行できること			
		22 パスワード発行時にレシートを出力できること			
		23 利用者登録画面からパスワードの削除ができること			
		24 パスワード発行に関して、新規、修正、削除、の履歴(ログ)を残せること			
<b>5 利用者検索</b>					
		1 氏名(カナ漢字)から検索できること。また、利用者名の全文検索も可能なこと			
		2 電話番号から検索できること。また、検索をする際に「-」を入力せず検索ができること			
		3 住所コードから検索できること			
		4 生年月日から検索できること			
		5 メールアドレスから検索ができること			
<b>6 利用者管理</b>					
		1 最終利用日や有効期限日を抽出条件として利用者データを一括で削除できること			
		2 特定の条件で集計した利用者データの区分を一括して変更することができること			
		3 延滞利用者に対して、自動的に貸出禁止の状態にできること。また、延滞資料が返却された時点で貸出禁止の状態は解除されること			
<b>7 資料検索</b>					
		1 図書館独自の情報を書誌に登録でき、かつ検索できること			
		2 検索項目、一覧表示項目、詳細表示項目を打合せにより指定できること			
		3 マークデータ全てを検索項目にすることができること			
	○	4 全ての項目を対象に全文検索ができること			
		5 濁点、半濁点、長音、促音、拗音、マイナス、大文字、小文字の別を無効として検索できること			
		6 全角半角関係なく検索できること			
		7 ひらがな、カタカナの区別なく検索できること			
		8 前方一致、中間一致、後方一致、完全一致で検索できること			
		9 検索は図書、雑誌、音声資料、映像資料をそれぞれ対象とすることができること。また、それぞれを横断する形でも検索できること。			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		10 NDC分類をたどっていく検索ができること。 (例:200歴史→210日本の歴史→213関東地方)			
		11 図書館独自の分類による検索ができること			
		12 同義語検索ができること			
		13 同義語のデータは図書館で追加、修正、削除ができること			
		14 登録番号、分類番号、書誌番号、ISBN、マーク番号での検索ができること			
		15 特集名で検索できること			
		16 曲名で検索できること			
		17 MARCデータ(出版情報)で検索ができること			
		18 価格を範囲指定しての検索ができること			
		19 請求記号での検索ができること。また請求記号3段目のみの内容でも検索ができること			
		20 資料区分、形態区分、蔵書区分、言語区分、所蔵館、所蔵場所、開閉区分、出版年、受入日、受入先などで結果を表示できること			
		21 検索項目同士での複合検索ができること(AND,OR,NOT)			
		22 同一項目間での掛け合わせ検索ができること			
		23 検索画面で前回検索した検索語や絞込み条件を呼び出すことができること			
○		24 TRCコード化情報のコードを検索条件として、検索画面に表示し、複数選択して検索できること。画面に表示するコードの種類はパラメータで任意に設定できること。			
		25 TRCTOOLiとシームレスに連携して、TOOLiデータと自館データとの同時横断検索ができること			
		26 著者典拠データと連携し、典拠検索実行時に統一形と記述形のデータを一覧で確認できること。また、統一形・記述形まとめた形で資料の検索ができること。			
		27 著者典拠データと連携し、典拠検索実行時に統一形と参照形(ペンネームなど)のデータを一覧で確認できること。また、統一形・参照形まとめた形で資料の検索ができること。			
		28 TRCTタイプ一般件名典拠データと連携し、典拠検索で主標目を検索した際に、細目の件名も一覧で確認できること。また、主標目・細目それぞれでの検索だけでなく、主標目・細目まとめた資料の検索もできること。			
		29 TRCTタイプ一般件名典拠データと連携し、典拠検索でキーワードを入力した際に、正規の件名標目を一覧で確認できること			
		30 TRCTタイプ出版者典拠データと連携し、典拠検索実行時に、異名同出版者のデータを一覧で確認できること。また、個々の出版者表記での検索だけでなく、表記違いをすべてまとめた形での資料の検索もできること。			
		31 TRCTタイプ出版者典拠データと連携し、典拠検索実行時に、同名異出版者を区別できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		32 TRCTタイプ全集典拠データと連携し、典拠検索実行時に、異名同全集のデータを一覧で確認できること。また、個々の全集表記での検索だけでなく、表記違いをすべてまとめた形での資料の検索もできること。			
		33 TRCTタイプ全集典拠データと連携し、典拠検索実行時に、同名異全集を区別できること			
		34 TRCTタイプシリーズ典拠データと連携し、典拠検索実行時に、異名同シリーズのデータを一覧で確認できること。また、個々のシリーズ表記での検索だけでなく、表記違いをすべてまとめた形での資料の検索もできること。			
		35 TRCTタイプシリーズ典拠データと連携し、典拠検索実行時に、同名異シリーズを区別できること			
		36 TRCTタイプ学習件名典拠データと連携し、典拠検索で主標目を検索した際に、細目の件名も一覧で確認できること。また、主標目・細目それぞれでの検索だけでなく、主標目・細目まとめた資料の検索もできること。			
		37 TRCTタイプ学習件名典拠データと連携し、典拠検索でキーワードを入力した際に、正規の件名標目を一覧で確認できること			
		38 TRCTタイプ学習件名典拠データと連携し、典拠検索で学習件名から関連する一般件名、および人名典拠の検索結果に展開できること			
	○	39 TRCTタイプ著作典拠データと連携し、典拠検索で著作情報から関連する著作の検索結果に展開できること			
		40 上記の各種典拠データについては、書誌検索の画面から検索できること			
		41 典拠検索一覧から、典拠マスタ登録画面が開き、データの修正・確認が出来ること			
<b>8 資料検索結果一覧</b>					
		1 検索結果一覧では、資料状態(所蔵、予約、選書、発注、貸出)の冊数を館別に表示できること			
		2 検索結果一覧からキーワードの追加による絞り込み検索ができること			
		3 結果一覧は以下の項目で並び替えができること。 書名(昇順/降順),著者名(昇順/降順),出版者名(昇順/降順),出版年(昇順/降順),分類(昇順/降順)			
		4 検索結果一覧から資料を複数ピックアップして予約処理が行えること			
		5 結果結果をプリンタで出力できること			
		6 検索結果をCSVファイルにダウンロードできること			
		7 検索結果一覧の表示件数を画面上で切替できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		8 検索結果一覧のページ遷移は、1ページ単位の遷移の他に、ページ番号を指定して該当のページにジャンプできる機能があること			
		9 書誌事項は完全に表示できること			
		10 表紙画像を表示できる機能があること			
		11 検索結果詳細画面から次の詳細画面へワンタッチで移動できること			
		12 結果一覧から書誌の修正画面へ移動できること			
		13 検索結果詳細で、資料の所蔵の状況が一覧で確認できること			
		14 所蔵一覧から、所在場所を印字したレシートが出力できること			
		15 検索結果詳細で、資料の予約の件数が確認できること			
		16 検索結果詳細で、資料の発注の状況が一覧で確認できること			
		17 検索結果詳細で、資料の予約者、貸出者の情報が確認できること			
<b>9 予約登録</b>					
		1 検索結果詳細画面から資料の予約ができること			
		2 検索結果一覧から複数の資料を選択して一括で予約が行えること			
		3 発注中の資料にも予約ができること			
		4 利用者を特定してから予約をかけたい書誌を任意に呼び出し予約がかけられること			
		5 予約希望者がカードを忘れても、利用者検索により情報を呼び出せること			
		6 特定の所蔵資料に対して予約をかけられること			
		7 特定の館の所蔵は、予約確保、在架予約ともに受け付けない設定ができること			
		8 予約冊数の制限は利用者区分別、資料種別ごとにシステム管理者が任意に設定できること			
		9 利用制限をオーバーする場合は、メッセージが表示されること。			
		10 予約時に予約受付日を登録できること			
		11 予約受取館が選択できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		12 連絡方法をメールにした場合に利用者データにメールアドレスが登録されているか確認すること			
		13 個人利用者の同一書誌への二重予約の場合メッセージを表示すること			
		14 団体利用者は同一書誌に対して複数の予約ができること			
		15 上下巻などのセット物の資料に予約をした際、利用者にセットで提供できる予約方法があること			
		16 シリーズ物の資料を予約する際に、確保順を指定できること			
		17 シリーズものの資料を予約した後、後から追加で新しい巻の予約を追加でき、確保順も指定できること			
		18 シリーズものの資料を予約した後、後からシリーズ予約を解除できること			
		19 予約画面において、予約資料に対する予約者の一覧が表示でき、容易に予約順位の変更や予約解除ができること			
		20 予約資料が自館になく、他館にある場合に取寄せ(在架予約)の依頼を行なうことができること			
		21 在架予約の依頼がかかっている資料の一覧は画面上で確認できること			
		22 在架予約依頼の一覧をA4の紙に出力することができ、棚当たりで使用できること			
10		<b>予約連絡</b>			
		1 予約資料は、返却された際に確保、もしくは予約移送状態になること			
		2 予約確保連絡のメールは、手動・自動で送信できること。自動で送信する場合は、確保時に送信するか、毎日特定の時間に送信するか設定できること			
		3 予約確保連絡メールの件名、本文、フッターは図書館職員が自由に設定できること			
		4 正常に送信されたメールの送信履歴を確認できること			
		5 エラーで送信できなかったメールの情報を確認できること			
		6 予約確保連絡のメールが正常に送信された場合、予約データに連絡日時が登録されること			
		7 連絡方法が電話となっている予約確保済資料を抽出して連絡済みの登録、管理ができること			
		8 上記の予約連絡処理で連絡が取れなかった利用者については、不在者のみ抽出して再度連絡ができること			
		9 確保、仮確保資料となっている資料が当該者により予約解除された場合、通常の利用可能資料となる他に予約者がいる場合は次の利用者に確保されること			
		10 予約確保資料について、本人に確保資料とは別の複本を貸出した場合に、既存の確保済資料を予約削除し、削除内容はリストに出力されること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		11 予約の期限日を過ぎた資料に対して予約を削除する機能があること			
		12 予約データの確保期限日を一括で変更できること			
	○	13 予約データの連絡済状態を一括で解除し、再度、電話・メール等での連絡対象とする機能があること			
<b>11 閲覧統計</b>					
		1 貸出冊数、返却冊数、利用者数、予約件数について、当日の累計冊数が端末で確認できること			
	○	2 来館者数を自動でカウントし、集計結果を確認できること			
<b>12 督促</b>					
		1 督促処理は貸出館別におこなえること			
		2 任意の時点で任意の期間、督促回数などを設定して、督促者の抽出ができること			
	○	3 督促対象外にしたい利用者を個別に指定できること			
		4 督促対象者のリストが出力できること			
		5 督促対象者への督促葉書が出力できること			
		6 督促葉書は郵便番号順に出力できること			
		7 葉書の印刷にメッセージの印刷欄があり、メッセージの印刷ができること			
		8 督促対象者への督促メールが送信できること			
		9 督促記録(督促通知作成日、督促対象資料データ、督促回数)を利用者情報から参照できること			
		10 督促の履歴(督促日時、督促方法、督促回数)を管理できること			
<b>13 レファレンス管理</b>					
		1 レファレンス事例を新規登録・修正・削除することができること			
		2 受付情報として、受付日、質問内容、回答状況等を登録できること			
		3 質問者にレファレンス調査結果の回答をメールで送信できること			
		4 レファレンス事例を1件ごとに印刷できること			
		5 レファレンス事例の検索でヒットした一覧から、参考資料の書誌詳細、所蔵状況を確認できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		6 レファレンス事例の検索でヒットした一覧を紙、もしくはファイルに出力できること			
		7 登録されている個々のレファレンスデータに対して、OPAC公開可否を設定できること			
<b>14 配送処理</b>					
	○	1 システムが導入されていない配本サービス拠点で予約資料を貸し出す場合に、図書館で貸出状態にしてから、各施設に資料を配送し、利用者に提供できること			
		2 配送処理を行った後に、確認用の配送資料一覧を紙、もしくはファイルで出力できること			
		3 配本サービス拠点や分室で借りた資料は、図書館で返却できること			
		4 配送処理を行った場合、利用者へ貸出資料を配送した日に配送通知メールを送信できること			
<b>15 非常時貸出</b>					
	○	1 オフラインでの貸出/返却の機能があること			
		2 オフラインデータはサーバヘデータアップロード時に、貸出、返却等データを更新すること			
		3 オフラインデータはサーバヘデータアップロード時に、未登録資料など資料が「エラーリスト」として出力されること			
		4 オフラインデータのサーバヘデータアップロードは複数ファイルを同時に行えること			
<b>16 マーク管理</b>					
		1 ニッパンマーク、TRCマーク(Uタイプ、Tタイプ)、大阪屋マーク、トーハンマークなど 主要なマークについて取り込み可能であること			
	○	2 TRCマークについて、NCR2018に対応したフォーマットの取込みに対応していること			
		3 視聴覚資料に関して、TRC-AVマーク(Uタイプ、Tタイプ)、NHKマーク、ニッパンAVマーク、大阪屋AVマークが取り込み可能であること			
		4 TRC内容細目、ニッパン内容細目、トーハン内容細目の取込を行うことができ、検索もできること			
		5 TRC目次情報のデータが取り込めること			
		6 典拠データの取込みおよび検索ができること			
	○	7 TRCの以下の典拠データを取り込めること。 著者、出版者、全集、シリーズ、一般件名、学習件名、著作			
		8 典拠データの取込みにおいては、全件の取込みではなく、差分のみ追加で取込みできること			
		9 画面から典拠データの追加・修正・削除が行えること			
		10 登録されている典拠データをファイルに出力できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
	11	TRC非累積マーク、非累積内容細目、非累積目次情報、非累積AVマーク、非累積AV内容細目のデータが取込めること			
	12	書誌データ全般を編集可能であること			
	13	視聴覚資料の場合、時間・通番・品番・形態を表示できること			
	14	書誌項目、書誌データともに全体の長さに制限がないこと			
	15	書誌の入力時に書誌項目の総覧ができること			
	16	書誌データをコピーして新たな書誌データを作成できること			
	17	仮書誌データを登録し、正規マークファイルを取り込み時に上書きできること			
	18	画像データを書誌データに関連付けられること			
	19	URLを書誌データに関連付けられること			
<b>17 選書</b>					
	1	書誌番号、TRCNO、NPLNO、ISBN、業務用検索から書誌を特定して1件ごとに選書データを作成できること			
	2	書誌が無い場合は、手作業で書誌データを作成して選書データを作成できること			
	3	OPACから登録されたリクエスト情報を選書データとできること			
<b>18 発注</b>					
	1	書誌番号、TRCNO、NPLNO、ISBN、業務用検索から書誌を特定して1件ごとに発注を作成できること			
	2	書誌が無い場合は、手作業で書誌データを作成して発注データを作成できること			
	3	選書データの一覧、新刊MARCから発注データが作成できること			
	4	発注処理には、TRC新刊全点案内のバーコードを読み込むことにより連続処理できること			
	5	発注は資料検索画面からでも可能であること			
	6	ある一館から、全ての館の発注処理ができること			
	7	複本発注は冊数の入力で行なえること			
	8	発注登録時の初期値を設定でき、入力の省力化ができること			



○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		9 入力負荷を軽減するために、直前の発注データの複写ができること			
		10 発注処理を抜けるまでは、前に登録していた発注データの区分がデフォルトとして表示されること			
		11 同一書誌に対して二重発注のチェックができること			
		12 発注情報は任意に追加変更取消ができること			
		13 オンライン発注に対応していること			
		14 発注短冊を出力できること			
		15 TRCのベル便、継続本についてはあらかじめ採用コースを登録しておくことにより、発注データが自動生成されること			
		16 発注画面から所蔵状況、予約状況が確認できること			
		17 発注一覧では発注日の絞り込みを行なえること			
		18 条件を指定して抽出した発注データを一括削除できること			
<b>19 受入</b>					
		1 発注番号のバーコード走査で受入処理ができること			
		2 受入は、発注番号、ISBNの入力から特定でき、受入画面から資料検索も可能であること			
		3 発注を行なわなくとも蔵書データを作成できること			
		4 書誌が無い場合は、手作業で書誌データを作成して受入データを作成できること			
		5 ローカルデータ抽出MARCにより一括受入処理ができること			
		6 ローカルデータの一括受入時には「仮受入」状態とすることができて、現物との検収処理によりチェックをかけられること			
		7 視聴覚資料の受入を行うことができること			
		8 複本管理を行うことができること			
		9 受入画面で受入資料の所蔵情報、予約情報が確認できること			
		10 データ作成日、修正日、点検日が表示できること			
		11 受入データ作成時に予約データの引き当てができること			
		12 未受入一覧表を出力できること			
		13 新着資料一覧表を出力できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		14 請求記号(3段)の印字ができること			
		15 定型バーコードの印字ができること			
<b>20 排架</b>					
		1 受入中のものをスキャンすると在架状態(利用者に提供できる状態)になること			
		2 予約がかかっている資料をスキャンした場合に、確保ができること			
<b>21 蔵書管理</b>					
		1 所蔵ごとにメッセージが登録でき、貸出/返却画面で表示できること			
		2 資料の年度毎の貸出回数が履歴として残ること			
		3 所蔵のデータに最終貸出日を保持していること			
		4 「期限付別置」「新刊本」「特集コーナー」等の排架を本来の排架場所とは別に登録でき、期限を設定できること。期限終了後自動的に解除されること			
		5 書誌と現物の関連の間違ったものを、「書誌付替」機能で正しい書誌の下に移すことができること			
		6 所蔵館・別置記号・開閉区分などの蔵書データの区分を一括で更新・修正ができること			
		7 上記の処理はバーコード読み込み、特定条件での抽出結果、ハンディターミナルのポータブル端末でバーコードを読み込んだファイルの3種類から行えること			
		8 不明資料を一括で除籍できること			
		9 書誌単位の目録を出力できること			
		10 任意の資料バーコードを複数冊読み込んで、書誌の一覧リストをファイルに出力できること			
		11 所蔵や発注などとリンクがない書誌を抽出して、一括して削除できること			
		12 調査・紛失・延滞資料に対して、バッチで一括して不明にできること			
<b>22 相互貸借</b>					
		1 相互貸借資料のデータが管理できること			
		2 書誌が無い場合は、手作業で書誌データを作成して貸借データを作成できること			
		3 依頼先、返却予定日など必要な情報を登録できること			
	○	4 貸借館の貼付済バーコードがそのまま利用できること、自館バーコードと重複していても管理できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
	○	5 相互貸借先が異なる場合は、仮バーコードが重複しても管理することができること			
		6 相互貸借依頼票を出力できること			
		7 相互貸借一覧を出力できること			
		8 相互貸借資料送付票を出力できること			
		9 依頼先ごとの借受件数などの相互貸借統計が出力できること			
		10 リクエスト者、受取館、連絡方法等を入力することにより、予約と連動できること			
<b>23 雑誌管理</b>					
		1 雑誌はタイトル別に刊行サイクル情報と受入情報を管理すること			
		2 TRC雑誌マークの取込みに対応していること			
		3 マスター情報を作成することで、各号の登録処理については最小限で済むこと			
		4 画像データを巻号データに関連付けられること			
		5 URLを巻号データに関連付けられること			
		6 “最新号禁帯出”などが自動的にセットされること			
		7 「禁帯出」とする最新号について、指定された期日がきたら自動的にその制限が解除できること			
		8 所蔵情報は図書と同様のデータを持つことができ、予約においても、図書、雑誌を意識することなく同様に扱えること			
		9 排架処理を行うことで、予約確保を行うこと			
		10 雑誌の契約情報が管理できること			
		11 未着雑誌の集計一覧が画面で確認できること			
		12 雑誌カレントデータから製本所蔵データを登録できること			
		13 雑誌巻号を別のマスタに編入付替えができること			
		14 保存期限が過ぎた雑誌巻号を一括除籍できること			
<b>24 新聞記事登録</b>					

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		1 新聞・雑誌に掲載された記事内容を登録・修正・削除できること			
		2 登録した新聞・雑誌の記事内容を業務検索できること			
<b>25 スタッフ登録</b>					
		1 業務スタッフの新規登録・修正・削除ができること。 (登録内容は、スタッフ名、ID/PASSWORD、所属館、有効期限、電話番号、内線番号、E-Mail)			
		2 業務権限のレベル設定ができること。 (データ修正の可/否、プリンタ使用の可/否)			
		3 業務権限のレベル設定はメニュー単位で行えること。 (データ修正の可/否、プリンタ使用の可/否)			
		4 除籍権限を個別に設定できること			
		5 データの登録・更新・削除権限を機能単位で設定できること			
		6 発注・受入・相互貸借画面を表示した際に、自動的に呼出す区分のデフォルト値をスタッフ毎に登録できること			
		7 ログインパスワードに有効期限を設け、定期的にパスワードの更新を促すことができること			
		8 ログインパスワードは世代管理を行い、以前変更したパスワードと同じものを登録できないようになっていること			
<b>26 休館日設定</b>					
		1 休館日、祝日の登録・修正・削除ができること			
		2 上記設定は館ごとに個別設定が行えること			
		3 返却期限日および確保期限日の算出の際、休館日として扱うことができること			
<b>27 図書館登録</b>					
		1 図書館(分館などのデータ)の追加が任意に行えること			
		2 OPACに表示する開館時間の案内や図書館からのお知らせをメンテナンスできること			
<b>28 閲覧規則設定</b>					
		1 貸出冊数/貸出日数/返却期限日/予約冊数/予約取置日数が図書館で調整できること			
		2 館別に貸出冊数、予約冊数を設定できること。また、全館共通の規則も設定できること			
		3 利用者区分ごとに貸出冊数、予約冊数の設定ができること			
		4 資料区分ごとに貸出冊数、予約冊数の設定ができること。また、複数の資料区分をまとめてでの規則が設定できること。			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		5 課題資料等の貸出期間を、通常の規則とは別に設定できること			
		6 在勤在学の利用者の貸出・予約冊数を、通常の規則とは別に設定できること			
		7 長期貸出時の閲覧規則設定が館別にできること			
<b>29 コード設定</b>					
		1 資料区分や形態区分などのコード設定の一覧が確認できること			
		2 システム管理者がコードの追加を任意にできること			
<b>30 アクセスログ</b>					
	○	1 貸出／返却／予約や、利用者登録／検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存が可能であること			
	○	2 以下のアクセス情報が保存が可能であること。 アクセス日／時刻、アクセス館／IPアドレス／スタッフID、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号			
		3 保存されたアクセス記録をCSV形式にデータ出力が可能であること			
<b>31 システムログ</b>					
		1 各処理メニューにアクセスしたスタッフ、日時 of 操作ログを調査できること			
		2 各データを新規作成、更新、削除した際の操作ログを調査できること			
		3 予約の更新履歴のログを調査できること。更新履歴は予約資料が貸出された後からでも調査できること。			
		4 上記、取得した履歴は、CSVファイルで取得できること			
<b>32 蔵書点検</b>					
		1 蔵書点検は、点検作業により蓄積したデータのうち資料区分(図書雑誌AV)などの単位で指定した部分を、記録されていたデータとマッチングすることにより行えること			
		2 他館の点検範囲指定ができること			
		3 オフラインで、ハンディ端末ノートパソコンを使用して、点検作業ができること、また、ノートパソコンでのオンライン作業もできること			
		4 データ更新時にチェックリストを出力して、未登録、所蔵場所違い、予約ありなどが分かること			
		5 蔵書点検でスキャンした資料が貸出不明であった場合、警告の上、その場で返却や不明解除ができること			
		6 マッチングによって判明した不明資料(仮)を、調査対象資料としてリスト出力できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		7 上記の調査リストは何回も出力できること			
		8 調査対象となった不明資料(仮)を一括して不明処理できること。その際、処理した資料のリストを出力して不明回数を1回カウントすること。			
		9 上記の不明リストは再出力ができること。その際不明回数はカウントされないこと。			
		10 指定する回数以上の不明回数に達している資料を一括除籍でき、その結果を統計で確認できること			
<b>33 ICタグ対応</b>					
		1 ICタグによる貸出返却ができ、無断持ち出しを防止するゲートと連携できること			
		2 ICタグによる蔵書点検を行うことができること			
		3 利用者自身が操作する端末でICタグ資料の貸出ができること			
		4 ICタグ自動貸出機による貸出の件数をとることができること			
<b>34 電子図書館連携</b>					
		1 TRCの電子書籍マークを取り込むことができること			
		2 図書館の利用券とパスワードで電子図書館にログインができること			
		3 電子図書館を使用できる利用者の条件を指定できること			
		4 OPACの検索で図書と電子の資料と一緒に検索ができること			
		5 OPACの検索結果詳細画面より電子図書館の詳細画面へ遷移できること			
		6 電子書籍の公開フラグの変更に対して、リアルタイムで状態の更新が出来ること			
		7 利用券再発行時に、電子図書館側の貸出・予約データのリンクも更新されること			
		8 利用者のページから電子図書館の利用者のページへ遷移できること			
		9 OPACの利用者のページより、自分が電子図書館で借りている資料の一覧、予約している資料の一覧を確認できること			
		10 各利用者の電子図書館で借りている資料の一覧、予約している資料の一覧を確認できること			
		11 電子図書館で貸出中の資料が返却期限日を経過した際に、資料が返却された旨をメールでお知らせできること			
		12 電子図書館で予約中の資料が利用できるようになった際に、資料が取置された旨をメールでお知らせできること			
		13 検索結果一覧および詳細画面で電子書籍の書影が表示できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
35		利用者開放端末(館内OPAC)			
		1 大人用こども用の切り替えができること			
		2 離席管理機能をもち、一定時間で初期画面に戻ることができること			
		3 催し物案内、図書館からのお知らせは複数登録でき、1件ごとに表示開始日と終了日を設定できること			
		4 図書館独自の情報を書誌に登録でき、かつ検索できること			
		5 マークデータを検索項目にすることができること			
	○	6 全文検索ができること			
		7 分かちによるキーワード検索ができること			
		8 濁点、半濁点、長音、促音、拗音、マイナス、大文字、小文字の別を無効として検索できること			
		9 全角半角関係なく検索できること			
		10 ひらがな、カタカナの区別なく検索できること			
		11 検索は図書、雑誌、視聴覚資料をそれぞれ対象とすることができること。また、それぞれを横断する形でも検索できること			
		12 こども用の検索画面では、児童書のみ検索対象とすることができること			
		13 特定の保管場所(紛失中、装備中、修理中等)、資料区分、所蔵館の資料についてはOPACに表示をしないこと			
		14 NDC分類をたどっていく検索ができること。 (例:200歴史→210日本の歴史→213関東地方)			
		15 図書館独自の分類による検索ができること			
		16 同一項目間での掛け合わせ検索ができること			
		17 入力方式を「ひらがな」「えいすう」に切り替えられること			
		18 検索ヒット数の上限は導入時の設定で指定できること			
		19 結果一覧は以下の項目の並び替えが設定できること。 書名(昇順/降順),著者名(昇順/降順),出版者名(昇順/降順),出版年(昇順/降順),分類(昇順/降順)			
		20 検索結果一覧で資料が貸出できるか分かること			
		21 検索結果一覧で現在いる図書館にある所蔵資料のみの絞り込みができること			
		22 検索結果一覧に資料のヨミが表示されること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		23 検索結果一覧、詳細画面上で、入力したキーワードがハイライトで表示されること			
		24 検索結果詳細画面で、資料の内容と所蔵の状況、予約の件数が確認できること			
		25 詳細画面から次の詳細画面へワンタッチで移動できること			
		26 検索結果詳細画面で登録されている資料の表紙データが表示されること			
		27 資料の所在場所を印字した「所在確認票」をレシートに出力できること			
		28 検索結果資料の書架案内地図が表示できること			
		29 書架案内図の横に請求ラベルが表示されること			
		30 上記の書架案内図の画像が大きい場合には拡大・縮小表示及び、スクロール移動が操作できること			
		31 上記の書架案内地図を印刷できること			
		32 OPACの検索回数統計がとれること(館内OPAC/館外OPACごと)			
		33 OPACの検索条件のログがとれること			
		34 利用者が自分で資料の予約ができること			
		35 延滞があった場合は予約を受付けない等の予約条件を図書館で指定できること			
		36 予約は、複数の資料を選択して一度の認証で登録できること			
		37 上下巻等の資料をセット予約にできること			
		38 セットでの予約の際は、シリーズものの資料を巻号順に順番に受け取ることができること			
		39 新刊書等の予約は、一定期間は相互貸借(団体)利用者からの予約を制限することができること			
		40 利用制限をオーバーする場合は、メッセージが表示されること			
		41 予約時には受取館・連絡方法を指定できること			
		42 受取館、連絡方法の初期値は前回入力項目が反映されること。あるいは、利用者ごとの初期値を設定できること。			
		43 連絡方法については、電話やメールなどの方法を選択できること			
		44 予約完了後、予約確認票が出力されること			
		45 所蔵していない本をリクエストできること。また利用者自身でリクエスト状況を確認できること。			



○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
46		初回ログイン時に、カウンターで発行した仮パスワードから、利用者任意のパスワードに変更できる機能があること			
47		利用者が自分で利用状況や予約状況が確認できること			
48		貸出一覧の内容をレシートに出力できること			
49		貸出中の資料をシールに印刷できること			
50		予約一覧の内容をレシートに出力できること			
51		利用者のページで、有効期限切れ、または有効期限切れが近い旨をメッセージ表示できること			
52		利用者が登録しているメールアドレスが、登録ミスなどで送信できないアドレスが登録されていた場合、その旨を確認できること			
53		利用者ページの貸出状況一覧で貸出更新ができること			
54		利用者ページの予約状況一覧で受取館・連絡方法の変更ができること			
55		利用者ページの予約状況一覧で予約のキャンセルができること			
56		キャンセルした予約は一定期間、利用者のページに表示されること			
57		利用者がリクエストした資料の一覧が表示できること			
58		利用者のページからパスワードの変更ができること			
59		タッチOPACで新着案内を表示できること			
60		新着案内は毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
61		新着案内から各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
62		タッチOPACでベストリーダーを表示できること			
63		ベストリーダーは毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
64		ベストリーダーから各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
65		タッチOPACでベストオーダーを表示できること			
66		ベストオーダーは毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
67		ベストオーダーから各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
68		タッチOPACで特定の資料(紙芝居、点字資料など)の全件一覧を表示できること			
69		資料一覧はリアルタイムで表示可能なこと			
70		資料一覧に表示する資料の区分は設定で決められること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		71 資料一覧から各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		72 図書館が登録したテーマの資料リストを表示できること			
		73 一覧画面から資料詳細画面に遷移できること			
		74 図書館で、各テーマごとに自由に解説文を入力でき、表示できること			
		75 図書館で、各資料毎に推薦文を入力できること			
		76 各テーマの表示期間をあらかじめ設定できること			
<b>36</b>		<b>インターネット端末(インターネットOPAC)</b>			
		1 大人用こども用の切り替えができること			
		2 ホームページリーダーなど音声読み上げソフトに対応していること			
		3 英語表記、英語メッセージのOPACが用意されていること			
		4 全画面でログイン状態を保持できること			
		5 文字の大きさを変更できること			
		6 現在の表示位置を確認できる機能(パンくずリスト)があること			
		7 図書館ホームページトップにログイン情報が組み込みできること			
		8 催し物案内、図書館からのお知らせは複数登録でき、1件ごとに表示開始日と終了日を設定できること			
		9 図書館からSNSサイトに直接情報発信ができること。 (Twitter、FacebookなどのSNSに対応していること)			
		10 休館日カレンダーに催し物のイベント情報を表示できること			
		11 上記のイベント情報から、開催時間、内容などの詳細情報を確認できること			
		12 図書館独自の情報を書誌に登録でき、かつ検索できること			
		13 マークデータ全てを検索項目にすることができること			
		14 検索対象とした項目に全文検索ができること			
		15 分かちによるキーワード検索ができること			
		16 濁点、半濁点、長音、促音、拗音、マイナス、大文字、小文字の別を無効として検索できること			
		17 全角半角関係なく検索できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
18		ひらがな、カタカナの区別なく検索できること			
19		検索は図書、雑誌、音声資料、映像資料をそれぞれ対象とすることができること。また、それぞれを横断する形でも検索できること			
20		こども用の検索画面では、キーボード風の文字入力ができること			
21		検索語入力欄にキーワードを入力した際、候補となるキーワードが自動的に表示され、選択できること			
22		候補となるキーワードは、入力項目単位で制御されること(例:書名の入力欄には書名の候補しか表示されないこと)			
23		候補は、検索された件数の多い順に表示されること			
24		特定の保管場所、所蔵館の資料についてはOPACに表示をしないこと			
25		NDC分類をたどっていく検索ができること。 (例:200歴史→210日本の歴史→213関東地方)			
26		図書館独自の分類による検索ができること			
27		検索項目の掛合せや、検索結果の絞込み等、業務用並みの高度な検索ができること			
28		資料番号を指定した検索ができること			
29		請求記号での検索ができること			
30		内容細目内でのタイトル(曲名)・著者名(作曲者名)の掛け合わせ検索ができること			
31		検索ヒット数の上限は導入時の設定で指定できること			
32		結果一覧は以下の項目の並び替えが設定できること。 書名(昇順/降順),著者名(昇順/降順),出版者名(昇順/降順),出版年(昇順/降順),分類(昇順/降順)			
33		検索結果一覧の表示件数を画面上で切替できること			
34		検索結果一覧には、表紙画像が表示できること			
35		検索結果詳細には、貸出可能な所蔵館が表示できること			
36		検索結果一覧に資料のヨミが表示されること			
37		検索結果一覧、詳細画面上で、検索時に入力したキーワードがハイライトで表示されること			
38		検索結果詳細画面で、資料の内容と所蔵の状況、予約の件数が確認できること			
39		詳細画面から次の詳細画面へワンタッチで移動できること			
40		検索結果詳細の書誌情報は、初期表示時には基本項目を表示し、ページ移動等により内容などの詳細な書誌事項が表示されること			
41		書誌詳細で表示されている著者や、分類、件名、シリーズ名、出版者を使って再入力せず検索できる再検索機能を持つこと。			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
42		再検索項目は、図書館の指定項目も追加できること			
43		検索結果詳細画面で登録された資料の表紙データが表示されること			
44		検索結果詳細画面から、SNSサイトに直接情報発信ができること。 (Twitter、FacebookなどのSNSに対応していること)			
45		検索結果詳細画面でオンライン書店とアフィリエイト連携し、表紙データが表示できること			
46		検索結果資料の書架案内地図が表示できること			
47		上記の書架案内図の画像が大きい場合には拡大・縮小表示及び、スクロール移動が操作できること			
48		OPACの検索回数統計がとれること(館内OPAC/館外OPACごと)			
49		利用者が自分で資料の予約ができること			
50		延滞があった場合は予約を受付けない等の予約条件を図書館で指定できること			
51		検索結果一覧、新着案内、ベストリーダー、ベストオーダーから直接予約登録できること			
52		予約は、複数の資料を選択して一度の認証で登録できること			
53		上下巻等の資料をセットで予約できること			
54		セットでの予約の際は、セットでの受取を希望するのか、シリーズものの資料を巻号順に順番に受け取るのか、受取方法を選択できること			
55		新刊書等の予約は、一定期間は相互貸借(団体)利用者からの予約を制限することができること			
56		利用制限をオーバーする場合は、メッセージが表示されること			
57		予約時には受取館・連絡方法を指定できること			
58		受取館、連絡方法の初期値は前回入力項目が反映されること。あるいは、利用者ごとの初期値を設定できること。			
59		連絡方法については、電話やメールなど方法を選択できること			
60		予約登録完了時に、個人のメールアドレスに登録完了のメールを送信できること			
61		OPACでの予約は仮予約として受付け、職員チェック後に一括して本予約とできること、設定により本予約受付けとするか選択できること			
62		所蔵していない本をリクエストできること。また利用者自身でリクエスト状況を確認できること。			
63		検索結果の詳細画面から、任意の資料を自分のお気に入り登録しておくことができること。登録した本は利用者のページにて確認することができ、そこから予約が行えること。			
64		検索結果の詳細画面から、各書誌に対して書評を投稿することができること			
65		書評の投稿は、利用券とパスワードを持っており、ハンドルネームを登録している利用者限定されること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
66		投稿された書評の一覧が表示できること。また、検索結果詳細画面に書評で登録されたおすすめ度の平均点が表示されること			
67		投稿された書評に対して他利用者が投票することができること			
68		特定の利用者に対して書評を投稿できないように制御できること			
69		初回ログイン時に、カウンターで発行した仮パスワードから、利用者任意のパスワードに変更できる機能があること			
70		利用者が自分で利用状況や予約状況が確認できること			
71		利用者のページで、有効期限切れまたは有効期限切れが近い旨をメッセージ表示できること			
72		利用者が登録しているメールアドレスが、登録ミスなどで送信できないアドレスが登録されていた場合、その旨を確認できること			
73		利用者のページで、累計利用回数、最終利用日が表示できること			
74		貸出状況一覧で貸出更新ができること。設定により更新可否の選択ができること。			
75		貸出状況一覧では、タイトルをクリックすることで、資料の詳細情報を表示でき、お気に入り登録や書評の登録ができること			
76		予約状況一覧では現在の予約件数と準備できた予約がわかること			
77		予約状況一覧で受取館・連絡方法の変更ができること			
78		シリーズ予約の確保順を変更できること			
79		予約状況一覧で予約のキャンセルができること			
80		予約キャンセル時に予約の取消理由が登録可能なこと			
81		予約状況一覧では、タイトルを選択することで、資料の詳細情報を表示でき、お気に入り登録や書評の登録ができること			
82		キャンセルした予約は一定期間、利用者のページに表示されること			
83		予約キャンセル一覧では、タイトルをクリックすることで、資料の詳細情報を表示でき、お気に入り登録や予約登録、書評の登録ができること			
84		利用者がお気に入り登録した資料の一覧が表示できること			
85		お気に入り一覧では、データの削除や、メモの更新ができること			
86		お気に入り一覧は、任意のカテゴリでグルーピングできること			
87		お気に入り一覧では、タイトルをクリックすることで、資料の詳細情報を表示でき、予約登録や書評の登録ができること			
88		利用者がリクエストした資料の一覧が表示できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		89 利用者のページからパスワードの変更ができること			
		90 利用者のページからメールアドレス等の変更ができること			
		91 メールアドレス変更時は、変更完了メールが送信できること			
		92 変更完了メールの件名、本文、フッターは図書館職員が自由に設定できること			
		93 利用者のページで、自分が投稿した書評の確認、更新、削除ができること			
		94 上記のおすすめリストを作成するための情報として、本人の貸出履歴を残すかどうかを利用者自身で選択できる機能があること			
		95 利用者のページからレファレンスの質問を送信できること。送信された内容は、即時にデータベースに登録されること			
		96 自分が申し込んだレファレンスの質問の調査状況を利用者のページで確認できること			
		97 返却期限日が近い資料のリマインドメールを受け取ることができること			
		98 新着案内を表示できること			
		99 新着案内は毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
		100 新着案内から各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		101 ベストリーダーを表示できること			
		102 ベストリーダーは毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
		103 ベストリーダーから各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		104 ベストオーダーを表示できること			
		105 ベストオーダーは毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
		106 ベストオーダーは、現在の予約待ち人数で集計できること			
		107 ベストオーダーから各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		108 特定の資料(紙芝居、点字資料など)の全件一覧を表示できること			
		109 資料一覧はリアルタイムで表示可能なこと			
		110 資料一覧に表示する資料の区分は設定で決められること			
		111 資料一覧から各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		112 図書館が登録したテーマの資料リスト、HPリストを表示できること			
		113 資料リストから資料詳細画面に遷移できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		114 資料リストは、出版年降順、出版年昇順、出版者、著者、タイトル順で並び替えができること			
		115 図書館で、各テーマごとに自由に解説文を入力でき、表示できること			
		116 図書館で、各資料毎に推薦文を入力できること			
		117 おすすめリストの登録は、業務システムのマスタ登録画面より資料バーコードを読み込むだけで、データの資料登録ができること			
		118 おすすめリストの登録は、業務システムのマスタ登録画面より資料バーコードを読み込んだテキストファイルを取込むだけで、データの資料登録ができること			
		119 登録した資料のリストをエクセルで出力できること			
		120 レファレンス管理で登録されたレファレンスデータの検索ができること			
		121 検索でヒットするレファレンスデータは、OPAC公開可にしているデータのみとすること			
		122 利用者自ら興味分野(分類、件名等)を登録しておく、該当する資料を受け入れ後、自動でメール連絡を行うSDIサービス機能があること			
		123 SDIサービスの登録項目は、分類、タイトル、著者名、出版者、件名があること			
		124 登録後、SDIの登録内容を変更できること			
		125 SDIの送信間隔、日、曜日などは任意に設定できること			
		126 読書記録を残す残さないは、個人で制御できること			
	○	127 自分が借りた本の記録を一覧で確認することができること			
		128 読書履歴にメモを残すことができること			
		129 上記の一覧の中から自分自身で個別に読書履歴を削除できること			
<b>37 スマートフォンOPAC</b>					
		1 全画面でログイン状態を保持できること			
		2 催し物案内、図書館からのお知らせは複数登録でき、1件ごとに表示開始日と終了日を設定できること			
		3 図書館からSNSサイトに直接情報発信ができること。 (Twitter、FacebookなどのSNSに対応していること)			
		4 図書館独自の情報を書誌に登録でき、かつ検索できること			
		5 マークデータ全てを検索項目にすることができること			
		6 検索項目を対象に全文検索ができること			
		7 分かちによるキーワード検索ができること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		8 濁点、半濁点、長音、促音、拗音、マイナス、大文字、小文字の別を無効として検索できること			
		9 全角半角関係なく検索できること			
		10 ひらがな、カタカナの区別なく検索できること			
		11 検索は図書、雑誌、音声資料、映像資料をそれぞれ対象とすることができること。また、それぞれを横断する形でも検索できること。			
		12 検索語入力欄にキーワードを入力した際、候補となるキーワードが自動的に表示され、選択できること			
		13 特定の保管場所、所蔵館の資料についてはOPACに表示をしないこと			
		14 NDC分類をたどっていく検索ができること。 (例:200歴史→210日本の歴史→213関東地方)			
		15 図書館独自の分類による検索ができること			
		16 検索項目の掛合せや、検索結果の絞込み等、業務用並みの高度な検索ができること			
		17 内容細目内でのタイトル(曲名)・著者名(作曲者名)の掛け合わせ検索ができること			
		18 検索ヒット数の上限は導入時の設定で指定できること			
		19 結果一覧は以下の項目の並び替えが設定できること。 書名(昇順/降順)、著者名(昇順/降順)、出版者名(昇順/降順)、出版年(昇順/降順)、分類(昇順/降順)			
		20 検索結果一覧上で、貸出可能な資料かどうか判断できること			
		21 検索結果一覧、詳細画面上で、検索時に入力したキーワードがハイライトで表示されること			
		22 検索結果詳細画面で、資料の内容と所蔵の状況、予約の件数が確認できること			
		23 詳細画面から次の詳細画面へワンタッチで移動できること			
		24 検索結果詳細の書誌情報は、初期表示時には基本項目を表示し、ページ移動等により内容などの詳細な書誌事項が表示されること			
		25 書誌詳細で表示されている著者や、分類、件名、シリーズ名、出版者を使って再入力せず検索できる再検索機能を持つこと			
		26 再検索項目は、図書館の指定項目も追加できること			
		27 検索結果詳細画面で登録された資料の表紙データが表示されること			
		28 検索結果詳細画面から、SNSサイトに直接情報発信ができること。 (Twitter、FacebookなどのSNSに対応していること)			
		29 検索結果詳細画面でオンライン書店とアフィリエイト連携し、表紙データが表示できること			
		30 OPACの検索回数統計がとれること(館内OPAC/館外OPACごと)			
		31 利用者が自分で資料の予約ができること			



○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		32 延滞があった場合は予約を受付けない等の予約条件を図書館で指定できること			
		33 検索結果一覧、新着案内、ベストリーダー、ベストオーダーから直接予約登録できること			
		34 上下巻等の資料をセットで予約できること			
		35 セットでの予約の際は、セットでの受取を希望するのか、シリーズものの資料を巻号順に順番に受け取るのか、受取方法を選択できること			
		36 新刊書等の予約は、一定期間は相互貸借(団体)利用者からの予約を制限することができること			
		37 利用制限をオーバーする場合は、メッセージが表示されること			
		38 予約時には受取館・連絡方法を指定できること			
		39 受取館、連絡方法の初期値は前回入力項目が反映されること。あるいは、利用者ごとの初期値を設定できること。			
		40 連絡方法については、電話やメールなどの方法を選択できること			
		41 予約登録完了時に、個人のメールアドレスに登録完了のメールを送信できること			
		42 OPACでの予約は仮予約として受付け、職員チェック後に一括して本予約とできること、設定により本予約受付けとするか選択できること			
		43 検索結果の詳細画面から、任意の資料を自分のお気に入り登録しておくことができること。登録した本は利用者のページにて確認することができ、そこから予約が行えること			
		44 初回ログイン時に、カウンターで発行した仮パスワードから、利用者任意のパスワードに変更できる機能があること			
		45 画面上に利用券のバーコードを表示でき、利用券の代わりとして利用できること			
		46 利用者が自分で利用状況や予約状況を確認できること			
		47 利用者のページで、有効期限切れ、または有効期限切れに近い旨をメッセージ表示できること			
		48 利用者が登録しているメールアドレスが、登録ミスなどで送信できないアドレスが登録されていた場合、その旨を確認できること			
		49 利用者のページで、累計利用回数、最終利用日が表示できること			
		50 貸出状況一覧で貸出更新ができること。設定により更新可否の選択ができること			
		51 貸出状況一覧では、タイトルをクリックすることで、資料の詳細情報を表示できること			
		52 予約状況一覧では現在の予約件数と準備できた予約がわかること			
		53 予約状況一覧で受取館・連絡方法の変更ができること			
		54 シリーズ予約の確保順を変更できること			
		55 予約状況一覧で予約のキャンセルができること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		56 予約キャンセル時に予約の取消理由が登録可能なこと			
		57 予約状況一覧では、タイトルを選択することで、資料の詳細情報を表示できること			
		58 キャンセルした予約は一定期間、利用者のページに表示されること			
		59 予約キャンセル一覧では、タイトルをクリックすることで、資料の詳細情報を表示でき、お気に入り登録ができること			
		60 利用者がお気に入り登録した資料の一覧が表示できること			
		61 お気に入り一覧では、データの削除や、メモの更新ができること			
		62 お気に入り一覧は、任意のカテゴリでグルーピングできること			
		63 お気に入り一覧では、タイトルをクリックすることで、資料の詳細情報を表示でき、予約登録や書評の登録ができること			
		64 利用者がリクエストした資料の一覧が表示できること			
		65 利用者のページからパスワードの変更ができること			
		66 利用者のページからメールアドレス等の変更ができること			
		67 メールアドレス変更時は、変更完了メールが送信できること			
		68 変更完了メールの件名、本文、フッターは図書館職員が自由に設定できること			
		69 返却期限日が近い資料のリマインドメールを受け取ることができること			
		70 新着案内を表示できること			
		71 新着案内は毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
		72 新着案内から各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		73 ベストリーダーを表示できること			
		74 ベストリーダーは毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
		75 ベストリーダーから各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		76 ベストオーダーを表示できること			
		77 ベストオーダーは毎晩集計を行い、常に最新の情報が表示可能なこと			
		78 ベストオーダーは、現在の予約待ち人数で集計できること			
		79 ベストオーダーから各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		80 特定の資料(紙芝居、点字資料など)の全件一覧を表示できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		81 資料一覧はリアルタイムで表示可能なこと			
		82 資料一覧に表示する資料の区分は設定で決められること			
		83 資料一覧から各資料の詳細画面に遷移でき、所蔵状況の確認や予約が行えること			
		84 図書館が登録したテーマの資料リスト、HPリストを表示できること			
		85 資料リストから資料詳細画面に遷移できること			
		86 資料リストは、出版年降順、出版年昇順、出版者、著者、タイトル順で並び替えができること			
		87 図書館で、各テーマごとに自由に解説文を入力でき、表示できること			
		88 おすすめリストの登録は、業務システムのマスタ登録画面より資料バーコードを読み込むだけで、データの資料登録ができること			
		89 おすすめリストの登録は、業務システムのマスタ登録画面より資料バーコードを読み込んだテキストファイルを取込むだけで、データの資料登録ができること			
		90 登録した資料のリストをエクセルで出力できること			
		91 利用者自ら興味分野(分類、件名等)を登録しておく、該当する資料を受け入れ後、自動でメール連絡を行うSDIサービス機能があること			
		92 SDIサービスの登録項目は、分類、タイトル、著者名、出版者、件名、所蔵館、資料区分、形態区分、蔵書区分、言語区分があること			
		93 登録後SDIの登録内容を変更できること			
		94 SDIの送信間隔、日、曜日などは任意に設定できること			
		95 自分が借りた本の記録を一覧で確認することができること			
		96 読書記録は削除ができること			
		97 携帯電話用のOPACがあること、DOCOMO,au,SOFTBANKに対応していること			
<b>38</b>	<b>帳票</b>				
		1 出力は画面プレビューにて確認後行えること (設定によりレシートプリンタ出力もできること)			
		2 リスト、統計データはCSVファイルに出力して、Excel等の表計算ソフトで編集できること			
		3 日本図書館協会の公共図書館調査、ならびに公立図書館長協議会の補足調査に必要なデータが抽出できること			
		4 UTF8(多言語)での出力ができること			
		5 帳票の抽出条件をお気に入りに登録できること			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		6 統計などの集計条件をあらかじめ登録しておき、指定日時に自動的に集計処理を実行することができること			
<b>39 帳票一覧</b>					
		1 利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能な項目見出しつきデータとして保存・印刷が可能であること。また、画面プレビューにて確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示可能であること。			
	○	2 日本図書館協会調査票・愛知県図書館調査票・図書館年報に対する項目が出力できること			
		3 下記項目の印刷処理が可能であること。			
		(1) 利用者リスト 次の項目を任意に範囲指定できること。(①利用者カード番号②発行日③有効期限日④利用者区分)			
		(2) 通知メッセージ一覧表 (利用者データにコメントが入力されている人だけを抽出する)			
		(3) 新着資料一覧表 内容:請求記号、資料名、巻号、著者名、出版社、資料コード			
		(4) 雑誌タイトル一覧表			
		(5) 蔵書目録 次の項目を任意に範囲指定(①受入日②資料コード③請求記号④所蔵場所)内容:資料名、巻号、請求記号、著者名、出版者、資料コード、場所、大きさ、受入年月日、貸出回数(年度・累計)			
		(6) 貸出リスト 次の項目を任意に範囲指定(①利用者カード番号②貸出日③返却期限日)内容:利用者番号、利用者名、資料名、巻号、著者名、出版者、資料コード、請求記号、大きさ			
		(7) 予約一覧リスト 次の項目を任意に範囲指定(①利用者コード②予約日③予約処理館④予約連絡区分⑤予約連絡状態)			
		(8) 在架予約出庫依頼表 次の項目を任意に範囲指定(①予約日②予約対象館③予約区分)内容:資料名、巻号、請求記号、著者名、出版者、資料コード、場所、予約区分			
		(9) 予約取消一覧リスト 予約解除日を任意に範囲指定 内容:資料名、巻号、請求記号、著者名、出版者、資料コード、場所、大きさ、予約確保日、予約解除日、予約利用者名、利用者コード			
		(10) 閉架資料請求票 館内OPACで検索した結果をレシートプリンタに出力 内容:資料名、巻号、請求記号、著者名、出版社、資料コード、場所、大きさ			
		(11) 発注書 次の項目を任意に範囲指定(①発注日②発注先)内容:発注日、資料名、巻号、著者名、出版者、ISBN、NPLNo.、単価、冊数、発注番号(バーコード)			
		(12) 時間帯別利用統計			
		(13) 日別利用統計			
		(14) 月別利用統計 内容:利用者区分別、利用者数、貸出冊数、返却冊数、予約冊数、登録者数 *利用者区分別に年齢が12歳までの内訳も必要			
		(15) 曜日別利用統計 内容:利用者区分別、利用者数、貸出冊数、返却冊数、予約冊数、登録者数 *利用者区分別に年齢が12歳までの内訳も必要			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		(16) 地区別貸出統計			
		(17) 曜日別時間帯別利用統計			
		(18) 資料分類一月別貸出統計			
		(19) 資料形態一年齢別貸出統計			
		(20) 地区一年齢別利用者統計			
		(21) OPAC検索回数統計 (館内端末、Web、携帯)			
		(22) ベストリーダー・ワーストリーダー			
		(23) ベストオーダー			
		(24) 資料分類別蔵書冊数統計 処理対象日付を任意に範囲指定 内容:資料区分別、受入区分別冊数・金額、除籍冊数・金額、集計後冊数・金額			
		(25) 所蔵館別蔵書冊数統計 処理対象日付を任意に範囲指定 内容:資料区分別、受入区分別冊数・金額、除籍冊数・金額、集計後冊数・金額			
		(26) 地区一年齢別登録者統計 全登録者または無効区分が有効のものを選択 内容:登録者数、地区別、年代区分別、性別、利用者区分別			
		(27) 実利用者数統計 内容:地区別、年代区分別、性別、利用者区分別			
		(28) 貸借館別相互貸借統計			
		(29) 資料区分別相互貸借統計			
		(30) 相互貸借借受資料一覧表			
		(31) 相互貸借依頼票			
		(32) 相互貸借資料送付票			
		(33) 蔵書点検エラーリスト			
		(34) 不明候補資料一覧表			
		(35) 不明資料一覧表			
		(36) 除籍候補一覧表			
		(37) バーコード印刷			
		(38) 請求ラベル印刷			
		(39) 貸出レシート			

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		督促リスト 次の項目を任意に範囲指定(①返却予定日②利用者区分③予約の有無) 内容:利用者カード番号、利用者名、性別、年齢、電話番号、資料コード、資料区分、請求記号、資料名、巻号、著者名、出版者、大きさ、貸出日、返却予定日、現在場所、予約の有無			
		(41) 予約確保票 (予約資料の返却時)			
		(42) 予約確保連絡一覧			
		(43) 送信済みメールリスト			
		(44) パスワード発行統計			
		(45) レファレンス統計			

## 2 座席管理システム機能仕様書

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
<b>1 座席管理システムの導入範囲</b>					
		1 利用者自ら、座席予約・利用・終了することが可能なセルフ座席管理システムを導入すること。予約管理するコーナーは、学習室(102ブース)、インターネット・AVコーナー(10ブース)、コワーキングブース(5ブース)、グループ学習室を予定する。			
		2 利用者が座席予約するための予約端末とは別に、職員がマスタメンテナンスやイレギュラー対応する管理端末も用意すること			
	○	3 図書館システムに利用者登録されている者を対象とすること。また、図書館システム連携実績のあるシステムであること。			
		4 各コーナーに設定した運用ルールの変更が必要になった場合等、利用回数・利用時間を図書館職員の設定変更により容易に対応できること。			
	○	5 来館された利用者に当日分座席予約と、利用者が図書館外のPC・スマートフォン等からインターネット経由で図書館ホームページに接続し、未来日の座席仮予約まで網羅されているパッケージシステムであること。 (2週間先まで予約可能等の予約期間は導入時に設定可能なこと)			
		6 利用者が平等に利用出来るよう、当日1個、未来日1個までの予約とし、当日・未来日ともに複数予約はできない仕組みとすること。 例：明日16:00に予約し、明日(当日)朝9:00に来館した場合は、(当日)16:00の予約キャンセルしないと利用できない。 例：明日9:00に予約し、明日(当日)9:00に訪問した場合、次の予約は利用終了しないと予約できない。明日(当日)訪問した際には、翌日以降(未来日)は、9:00からでも1個予約可能。			
<b>2 前提条件・共通</b>					
		1 導入する座席管理システムパッケージは、全国の公共図書館に10館以上導入実績があること。また、図書館システムと連携するための標準接続インターフェースを保有しているパッケージであること。			
		2 未来日の仮予約機能の導入・運用実績があること			
		3 貸出券の番号で利用認証を行い予約席の座席管理ができること			
		4 導入する全パソコンに、ウィルス対策を施すこと			
		5 導入する全パソコンには、特定のメニューボタンを出さないなど、Windows操作制限がかけられること			
<b>3 未来日の仮予約機能</b>					

## 2 座席管理システム機能仕様書

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要求仕様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
1		図書館外のインターネット接続したPC等からインターネット経由で図書館ホームページに接続して、以下機能を有すること。 ①現時点の座席空席状況を確認できること。 ②貸出券の番号・パスワード(図書館システム連携して認証)入力の上、座席予約状況の確認と当日1時間後以降等及び未来日の座席仮予約が可能なこと。			
2		仮予約した利用者は、利用者が来館して所定の時間+15分後等までに、予約端末から本予約を行うことで利用可能とすること。所定の時間から15分等経過しても本予約がない場合は、予約が自動的にキャンセルされ、該当の座席は次の利用者に割り当て対象となること。			
3		インターネット経由で図書館ホームページに接続して、仮予約した確認画面・仮予約取消の機能を有すること			
○	4	パソコン用サイト、スマートフォン及びタブレット用サイトの構築にあたって、Edge・Chrome・サファリのみブラウザ環境の試験を行うこと。今後新たに生まれるブラウザ環境への適用費用は含まない。			
5		利用者がインターネット経由で仮予約できる座席を指定することが出来る。(設定しない席は当日館内予約しか出来ない仕様とする) また、利用者からインターネット経由で仮予約されていない座席は、当日館内から予約可能とする。			
<b>4 利用者の認証</b>					
○	1	利用者認証は、図書館システムと連携すること。利用者データベースは、図書館システム側で一元管理すること。			
	2	貸出券の番号の有効/無効を確認し、無効の場合は警告画面を表示して利用できない制御を行うこと。			
	3	貸出券の番号の二重登録を確認し、すでに同じ番号で利用中の場合には受付しない制御を行うこと。			
	4	同一利用者の同日内の最大利用回数、最大利用時間を制限することができること。最大数超えた利用は、利用認証の際に判断し利用できない制御を行うこと。			
	5	図書館システムと連携することにより、年齢、利用区分等で各ブース毎の条件設定に合わない場合は、そのブースのみ利用できない制御を行うことが出来ること。制限する内容については、別途打ち合わせの上決定する。			
<b>5 座席予約端末</b>					
	1	専用の座席予約端末にて、利用者自身が貸出券の番号を使った利用申し込みができること。専用の座席予約端末は、タッチパネル操作で誰でも簡単に操作できること。			
	2	貸出券の番号の読み込みは、バーコードリーダー、キーボード入力、タッチパネル画面のソフトウェアキーボード対応などができること			



## 2 座席管理システム機能仕様書

○: 既存パッケージ、△: カスタマイズ対応、× 対応不可

No.	必須	要求仕様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
3		座席予約端末にて貸出券の番号を入力した後に、現時点でのコーナー毎の利用制限(利用回数・時間・複合条件)内容が確認できること			
4		座席予約画面にて利用カードの番号を入力し、【いつから】【どの座席を】【何分間】使うかを指定し座席を予約することができること。また、利用者が優先したい選択条件(①開始時間・②利用したい座席・③利用時間)から、絞り込みを掛けて、予約決定可能であること。 例1: ③利用時間→①開始時間→②利用したい座席(座席決定) 例2: ②利用したい座席→③利用時間→①開始時間(開始時間決定) 例3: ①開始時間→②利用したい座席→③利用時間(利用時間決定)			
5		【いつから】【どの座席を】【何分間】の指定は、選択肢が一つしかない場合は表示させない設定ができること			
6		利用時間をコーナー毎に①コマ割り(開始時間・利用時間指定コマ)、②【今から(何時何分から) or 何時(何時何分から)から】【どの座席を】【何分間】利用するか、予約方法が選択可能なこと			
7		来館者優先、平等に席利用できるようにするため、コマ割り予約の場合は、現在時間のコマと次のコマ以外は予約できない設定が可能なこと。(現在コマが満席の場合は次コマは予約可能とする。また、夕方来館の方も予約可能とする。) 例: ①10:00～11:00 ②11:05～12:05 ③12:10～13:10 ④13:15～14:15のコマ割りの場合、10:00に来館した場合、①②のどちらか1個予約可能となり、11:15に訪問した場合は②③のどちらか1個予約が可能となる。			
8		予約と予約の間隔の時間設定はコーナー毎に初期設定できること (例: インターネットコーナーは5分間隔、予約席は2分間隔)			
9		【いつから】利用者に開始時刻を設定させず、システムが自動で最短で利用できる時刻を設定する機能も保有すること			
10		【どの座席を】利用者が選択する際に、座席番号で指定するだけでなく、座席MAPの席を直接タッチして指定する機能も保有すること			
11		【どの座席を】使うかは、利用者が選択するのではなく、システムが自動設定する設定も可能であること。また、自動設定された座席を利用者に分かり易く誘導するため、予約座席を座席MAP上で反転させる等して位置案内することが可能なこと。			
12		【何分間】使うかを選択する際、閉館間際で残り時間がわずかな場合は「閉館まで」の選択が可能であること			
13		座席予約端末に表示する画面は、背景を図書館との相談で設定することが可能なこと。背景のデザイン作成等は含まない。			
14		座席予約端末に表示する画面には、図書館より画像提供されたキャラクターなどを表示することが可能なこと			

## 2 座席管理システム機能仕様書

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要求仕様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
15		座席予約端末から「座席利用上の注意」画面を表示できること。また、予約ボタンを押すと「座席利用上の注意」が表示され、最後まで読み終えて利用者が内容確認後、「承認」ボタンを押さないと予約入力画面に遷移しない設定も可能なこと。			
16		座席予約端末の待ち受け画面にて、対象コーナーが一覧表示されること。また、それぞれのコーナーの保有座席数、現時点での利用可否がリアルタイムに表示されること。満席の場合は、満席表示し何時何分から予約可能か表示できること。			
17		各コーナーの座席利用状況のタイムスケジュールが一覧表示できること。予約中、※利用中、故障中、利用済みなどの状態が色識別でわかること。(※利用中表示は、データベース席(PC端末)のみ。)			
18		各コーナーの座席利用状況のタイムスケジュールは、リアルタイムにデータが更新され、常に最新の状態が表示されること。他の予約端末や管理端末から予約を入れると、予約端末の利用状況もリアルタイムに書き換わること。			
19		座席予約端末にて、どの座席で何時から何時まで予約が入っているか、座席の空席状況・利用状況をバー表示で時系列に確認できること			
20		座席予約端末にて、予約内容の削除・登録ができること			
21		予約席などパソコンを設置しない座席の場合、座席予約端末から退席処理ができること。退席処理をすると、該当の座席は次の利用者に割り当て対象となること。			
22		座席予約端末で予約した場合、予約票をレシート用紙に印刷できること			
23		予約票には、インターネットコーナーのPC端末でロック解除するためのパスワードが記載されていること。利用者はパソコンで予約票に書かれたパスワードを入力して初めてインターネット利用ができる仕組みとすること。			
24		インターネットコーナーのPC端末で、例えばパソコン①の予約のために発行されたパスワードを、パソコン②の待ち受け画面に入力してもロックは解除されない仕組みであること			
25		予約票に記載されたパスワードはシステムが発行するランダム番号とし、他者が類推できない番号とすること。また、同日内に同じ番号が発行されない仕組みであること。			
26		座席予約端末は特定のボタン/キー操作しかできないものとし、悪意ある第三者がパソコンに侵入できないセキュリティ対策を施すこと			
<b>6 職員用管理端末</b>					
1		職員用に管理端末機能を有すること			
2		管理端末では、利用者の予約情報の修正、削除、予約票レシートの再発行ができること			

## 2 座席管理システム機能仕様書

○: 既存パッケージ、△: カスタマイズ対応、× 対応不可

No.	必須	要求仕様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
3		利用者が退席処理をしないまま退席した場合、利用時間のバーにマウスでクリックすると管理端末から予約時間・貸出券の番号を表示し、周辺に居ないことを確認して、強制的に利用終了させられる仕組みを有すること。インターネットコーナーについては、利用終了するとPC端末は退席処理同様に自動的にシャットダウン処理して、HDD復元して、初期画面に戻る仕様であること。該当の座席は次の利用者に割り当て対象となること。			
4		同一利用者の同日内の利用が、最大利用回数/最大利用時間を超過した場合も、管理端末からは制限を超えた特別予約ができること (例:「1日1日2回まで」の座席でも、職員判断で認めた場合は管理端末から3回目の予約を入れられること)			
5		管理端末では利用者の代行予約ができること。 管理端末からは、イレギュラー対応できるように、注意喚起はされるが、複数予約も対応可能となっていること。			
6		PC端末が故障したり、座席使用が不可の場合など、時間を特定して利用できない時間枠(故障設定)をすることができること			
7		警察からの問い合わせに対応できるよう、利用者の利用履歴を確認できる画面が用意されていること。 利用者番号入力だけで検索できること。			
8		利用者同士で同じ時間の予約票を持っている場合などに調査できるよう、以下2点が標準機能として用意されていること。 ①予約票に、利用時間とは別に受付時間、印刷時間も印字されていること。 ②座席毎の利用履歴(誰が、何時～何時まで利用・予約・削除・退席etcしているか時系列)をメニュー選択から、職員にてCSVファイル出力出来ること。			
9		同一利用者の同日内の最大利用回数、最大利用時間の制限設定は、管理端末から特定の管理権限をもつ職員のみ設定値を変更することができること			
10		コーナー名称や座席名称は、管理端末から設定値を変更することができること			
11		予約票レシートに図書館側が自由に使えるメッセージエリアを2つ用意し、メッセージ文言は管理端末から変更できること			
12		管理端末からは、インターネットコーナー(PC端末)のインターネットアクセスログを保有できること。 インターネットアクセスログは、いつ、だれが、どの端末から、どのサイトを閲覧したかが記録されること。			
13		インターネットアクセスログは、特定の管理権限をもつ職員だけが操作できる仕組みになっていること			
14		利用統計が出力できること。それぞれブース・座席ごとの利用回数・利用延べ時間、1日の時間帯別の利用回数・利用時間などの数値をCSV出力できること。また、期間設定することで、その期間の集計数値もCSV出力できること。(※その他付加項目での集計は、別途お打合せの上決定とする。)			
15		各コーナーごとに、曜日別の開閉館時間は初期設定できること			

## 2 座席管理システム機能仕様書

○:既存パッケージ、△:カスタマイズ対応、×対応不可

No.	必須	要 求 仕 様	回答 ○・△・×	カスタマイズ 金額(円)	具体的説明
		16 職員がカレンダーから開閉館時間に変更になる日を事前に13カ月先まで設定しておくことができること。 また、設定した内容は容易に確認できること。(例:コーナーAは、12月1日午前中だけ予約対象としないなど)			